

平成 26 年度

ICT による高齢者・障害者の孤立防止事業

報 告 書

NPO法人バーチャル工房やまなし

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

■■ 目 次 ■■

事業の背景・目的	1
1 事業の背景	1
2 目的	2
 事業内容と実績	 3
1 事業全体の内容	3
2 連携団体と実行委員会の設置について	3
3 具体的な事業内容（柱建て）と実績	4
ICT 技術を用いたコミュニケーションを実現させる為の訪問支援活動	4
孤立防止に有効な ICT 技術を学ぶセミナーの開催	8
 支援事例	 1 1
訪問支援と遠隔支援の実例	1 1
 事業の成果と課題について	 1 4
1 ICT 技術を用いたコミュニケーションを実現させる為の訪問支援活動	1 4
2 孤立防止に有効な ICT 技術を学ぶセミナーの開催	1 6
3 事業全体の成果の考察	1 6
 見えてきた課題とこれからの取り組み	 1 7
1 課題	1 7
2 今後の取り組み	1 7

事業の背景・目的

1 事業の背景

高齢者・障害者の孤立に対する問題が、本法人の活動の中から寄せられてきました。

また、支援学校を卒業した若い重度の障害者が社会参加できず孤立している問題も、ご家族や支援している団体関係者から寄せられる中、その現状を把握しました。

更に、高齢者・障害者の皆さまの中には ICT（情報通信技術）を利用して社会参加したくてもできない方も多く見られます。

【孤立する原因】

- ① 若い人たちの街中への移住や少子化の影響などから、高齢者の独居世帯が増え、県内の多くの地域で過疎化が進んでいます。
- ② 公共交通機関の利便性がよくない上に、平地が少なく山裾の傾斜の多い地形ゆえに、高齢者や障害者の外出が困難になっています。
- ③ 障害者の潜在能力を活かす機会が少なく、家の中に引きこもりがちとなり、しだいに地域の人との交流も希薄になってきています。
- ④ 若い障害者は、支援学校に通う間に多くの人との交わりがあっても、卒業した後の自分の居場所が家庭などに限られてしまいます。
- ⑤ 重度の障害者の中には、ベッドや特殊な車いすから離れられず、毎日を自室のみで過ごす方もいます。

【高齢者・障害者が ICT を利用できない、使いこなせない原因】

- ① ICT 機器を手にしたこともなく、利用できないと思ってしまいます。
- ② ICT 機器に興味を持っても、使いこなせないという不安があります。
- ③ ウイルスや詐欺に会わないかなどの不安があります。
- ④ ICT 機器の使い方を習う機会に恵まれません。
- ⑤ 心身の障害から、ICT 機器を使えないと思い込んでいます。
- ⑥ 身近に丁寧に使い方を教えてもらえる人がいなくて困っています。
- ⑦ 家族や介助者が忙しく、これ以上負担を掛けたくないと思ってしまいます。
- ⑧ 個々の障害に応じた使い勝手を良くする方法を知る機会がありません。

2 目的

(1) 全体

高齢者・障害者の皆さまに、ICTを利用してコミュニケーションの輪を広げていただき、自らが持っている可能性を見出して自信を深め、社会参加への意欲を持っていただくことにより、孤立を防止することを目的としました。

また、ICTを活用して生活の利便性を高め、地域社会との繋がりの中で皆さまの生活がより充実したものになることを目指しました。

(2) ICTを用いたコミュニケーションを実現させる為の支援活動の目的

ICT 機器を所有していても使いこなせないでいる方や、興味を持っていても高齢や障害のために使えないと思っている方に、ICT 機器の便利な使い方などを習得していただくことを目的としました。

(3) 孤立防止に有効なICTを学ぶセミナーの目的

ICTを利用したコミュニケーションの取り方やその有効性などを、地域の高齢者・障害者や、これらの皆さまを支援している方々にも知っていただくとともに、参加者の皆さまから孤立に関する現状をお聞きし、孤立防止について考える機会を提供することを目的としました。

事業内容と実績

1 事業全体の内容

移動手段の確保や多くの人との交わりが困難な高齢者・障害者の皆さまを対象に、パンフレットを利用して広報活動を行い、自発的に申し出ができない方々にも働きかけて希望者を募り、ICTの習得支援を行いました。

また、ICTによる孤立防止をテーマにしたセミナーを開催して、地域の皆さまと一緒に考える機会を提供しました。

2 連携団体と実行委員会の設置について

本事業は複数の団体が連携を図り、「地域連携活動支援事業」として、各団体が持っているノウハウを共有しながら実施しました。

また、実行委員会を設置して、事業実施にかかる課題の把握、整理、検討及び事業の進捗管理を行いました。メンバーは、本法人より委員長、各連携団体から委員を1名選出、本法人事務局より1名参加して、計6名で構成しました。

なお、事業を進める上で必要な情報（個人情報を含む）の管理、支援者の派遣と実施についての管理、助成金の収支の管理、報告書の作成は、助成金申請団体である本法人（NPO法人バーチャル工房やまなし）が行いました。

連携団体と連携内容

連携団体名	所在地・活動範囲	連携内容
一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会 山梨支部	甲府市 山梨県全域	実行委員会委員 障害者（筋ジストロフィー）の ニーズの把握 支援希望者の受け付け セミナー共催
非営利任意団体 南アルプス市障害者福祉会	南アルプス市 峡西地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け セミナー共催
非営利任意団体 甲州市視覚障害者福祉会	甲州市 峡東地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け セミナー共催
非営利任意団体在宅障害者 外出支援サークル五っ湖	富士河口湖町 富士五湖地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け セミナー共催

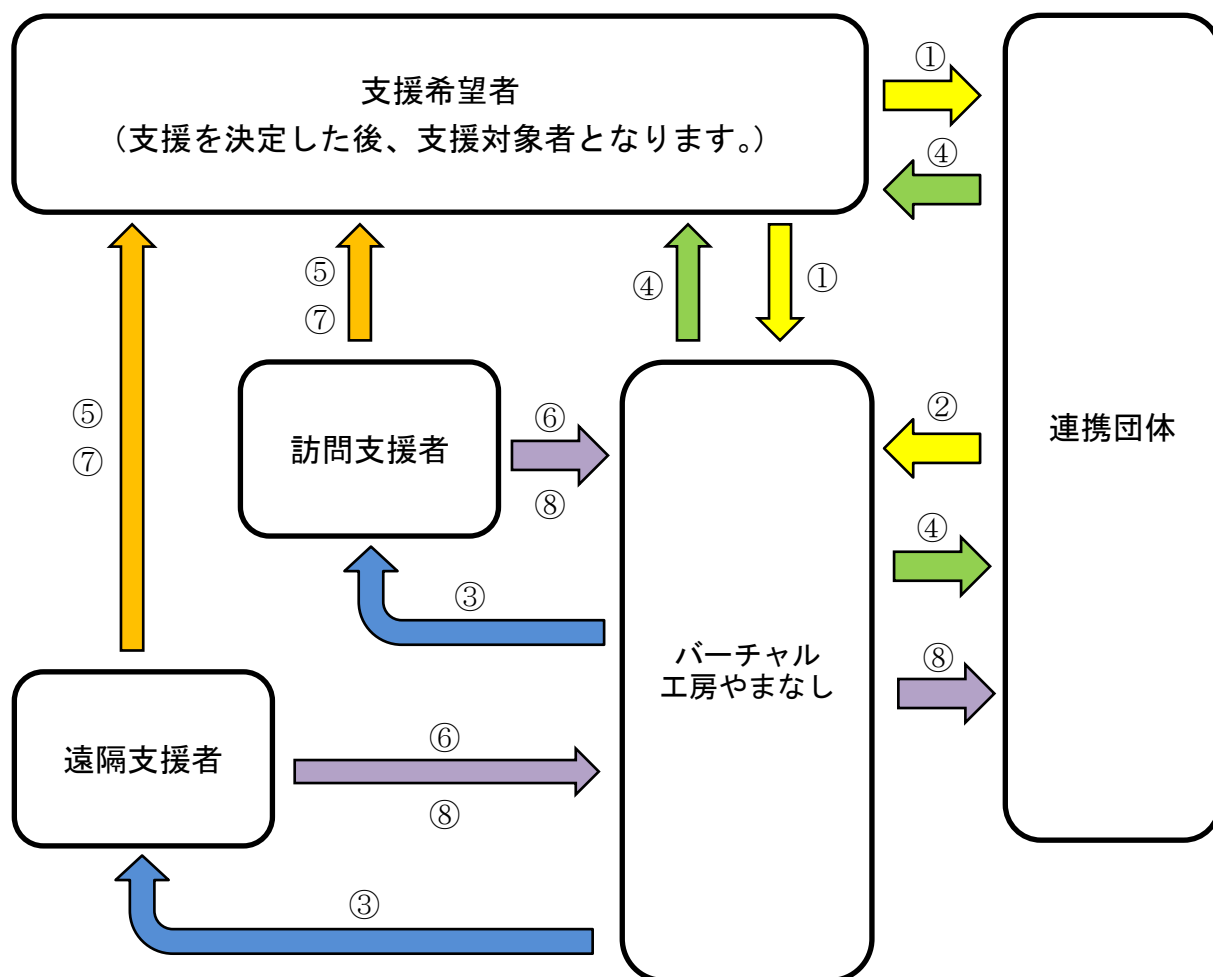
3 具体的な事業内容（柱建て）と実績

ICT 技術を用いたコミュニケーションを実現させる為の訪問支援活動

本法人と連携団体が把握したニーズを基に、支援希望者からの申し込みを受け付けた後、その内容を検討した上で対象者を決定し、日時の調整を行い支援しました。

(1) 支援の流れ

- ① 本法人（バーチャル工房やまなし）と連携団体が支援希望者を受け付けます。
（希望支援内容・希望日時・利用している機器の有無の確認）
- ② 申し込みを受けた団体は、「訪問・遠隔支援受付票」を作成し本法人へ提出します。
- ③ 本法人は「訪問・遠隔支援受付票」の内容を検討し、日時調整と内容の確認をした後、支援者に依頼します。
- ④ 支援対象者に支援実施の日程を伝えます。
- ⑤ 支援を実施します。（訪問のみ、遠隔のみ、訪問と遠隔での支援の併用）
- ⑥ 支援者は本法人に、支援実施内容などについての報告書を提出します。
- ⑦ 必要に応じて再度支援します。
- ⑧ 支援後は、支援実施内容などを連携団体に報告します。



ICTによる高齢者・障害者の孤立防止事業について

この事業は、高齢者・障害者の皆さまにICTを利用することでコミュニケーションの輪を広げるとともに、自らが持っている可能性を見出して自信を深めることで、社会参加への意欲をさらに持っていただくことを目的としています。

また、ICTを活用して生活の利便性を高め、地域社会とのつながりの中で皆さまの生活がより充実したものになることを期待しています。

この事業は助成金を受けて実施しているため、営利を目的としていません。

訪問支援とICTによる遠隔支援について

1. 訪問を希望する日時は、ご相談のうえ決まります。ご希望に応えられない場合もあります。
2. 遠隔支援とは、訪問せず離れた場所から音声通話を利用して行なう技術支援のことです。希望する日時は、ご相談のうえ決まります。ご希望に応えられない場合もあります。
3. 端末機器・ソフトの販売や販売のみの仲立はいたしません。
4. 端末機器の修理修繕は行いません。
5. 端末機器をお持ちでない方は、訪問時に講師が持参いたしますが、貸し出しは行いません。
6. 予約制になっておりますので、お申し込み・お問い合わせはバーチャル工房やまなし事務局、もしくは各協力団体の担当者にご連絡下さい。

協力団体

一般社団法人日本筋ジストロフィー協会山梨支部
南アルプス市障害者福祉会
甲州市視覚障害者福祉会
在宅障害者外出支援サークル五っ湖

NPO法人バーチャル工房やまなし

お問い合わせ・お申込みは、電話・FAX・メール等でご連絡ください。
事務局 TEL 055-242-2677 / FAX 055-242-2678
メール info@y-virtual.jp ホームページ <http://www.y-virtual.jp>

高齢者・障害者の孤立防止事業のご案内



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

NPO法人バーチャル工房やまなし

ICT機器を活用して生活をより便利に豊かに



申し込み方法

どうすれば申し込めるのかなー？

お電話、FAX、メールなどでご連絡下さい。訪問と遠隔支援の希望を付けます。

バーチャル工房やまなし並びに各協力団体へお申し込みください。

訪問してご支援します

お住まいまでお待ち下さい。

予約制になります。事前にご都合を合せてから訪問いたします。

お約束の場所に講師がお伺いして、支援をいたします。

家にも来てくれるんだー

ICT機器の修理などは致しかねます。

便利なはずのICT機器。でも利用に不安を持っていませんか？

パソコンやタブレットを使った事が無い。

機械は持っているけど、使い方がわからない。

インターネットを使う上で、セキュリティが心配。

利用してみたいけど...

私たちにも使えるのかなー？

ICTを使った交流に不安がある。

音声通話でもご支援します

ICT機器を使った音声通話での技術支援や、音声通話の利用法を習熟したい方の支援にも対応いたします。

予約制ですがお気軽にお申込みください。

音声通話での会話に不安が残る方。

操作に不安が残る方。

これなら安心！お願いしよう！

（２）訪問による支援について

訪問支援対象者には、直接自宅などに出向いて以下の内容の支援を行いました。

① スカイプの利用方法

無料で、電話やテレビ電話などができるソフトウェアであるスカイプを利用して、遠くに住んでいる家族や友人、知人などとのコミュニケーションの取り方を習得しました。

② メールの利用方法

手紙よりも手軽に送れる通信手段であることを知っていただくための、基本的な利用の仕方を習得しました。

③ 個々の障害に合わせ使いやすくするための工夫

パソコンや iPad などの設定を、障害に合わせて使いやすくしました。

④ パソコンや iPad などの利用の仕方などを体験

パソコンや iPad などに興味はあっても、手にすることに不安がある方には、用途に合わせた操作などを体験していただきました。

⑤ パソコンに入っているソフトの利用方法

季節の挨拶状やお便りの作り方など、お持ちのパソコンに入っているソフトを利用して作りました。

⑥ インターネットを利用する為の基本知識

インターネットを安全に利用するための基本知識を習得しました。

⑦ 用途に合わせたパソコン操作の基本知識

パソコンを購入したが思うように利用できない方に、用途に合わせた操作方法などを習得していただきました。

（３）遠隔支援について

遠隔による支援は、本法人の施設である ICT 学習センターで、遠隔支援担当者がスカイプ、メールを使用して（１）の④～⑥についての支援を行い、スカイプを使用した会話にも慣れていただきました。

(4) 訪問・遠隔支援の実績

支援対象者 (予定人数 20 名)	高齢者 10 名 (内、障害あり 7 名) 障害者 17 名 合 計 27 名
支援者数 (予定人数 5 名)	訪問支援者 6 名 ICT 学習センターからの遠隔による支援者 5 名
支援対象者の居住地 と市町村数	甲府市 4 名 甲斐市 6 名 甲州市 3 名 山梨市 1 名 笛吹市 1 名 富士吉田市 1 名 富士河口湖町 2 名 山中湖村 1 名 都留市 1 名 南アルプス市 6 名 富士川町 1 名
延べ支援回数・時間	訪問支援 76 回 230 時間 遠隔支援 54 回 162 時間

孤立防止に有効な ICT 技術を学ぶセミナーの開催 「高齢者・障害者の孤立防止セミナー」

事業の実施内容

日 時 平成27年2月11日（水/祝）13:00～16:00 開場12:30
場 所 山梨県立図書館イベントホール東
テ ー マ 「高齢者・障害者の孤立防止」
主 催 特定非営利活動法人バーチャル工房やまなし
共 催 一般社団法人日本筋ジストロフィー協会山梨支部 南アルプス市障害者福祉会
甲州市視覚障害者福祉会 在宅障害者外出支援サークル五っ湖
後 援 山梨県 社会福祉法人山梨県障害者福祉協会 （順不同）
参加費 無料
アンケート調査の実施

Session1 講演

- ① 孤立防止事業の実施報告
- ② ICT で叶えるコミュニケーション

NPO法人バーチャル工房やまなし 副理事長
一般社団法人日本筋ジストロフィー協会山梨支部 支部長
株式会社カルクソリューション事業部 課長 田崎輝美



Session2 講演

「ICTによる障害者の社会参加について」
帝京科学大学非常勤講師 社会福祉士
NPO法人バーチャル工房やまなし 会員

牧田大輝



Session3 シンポジウム

「高齢者・障害者の孤立防止について考える」

高齢者、障害者の社会参加に関わっていらっしゃる方々や参加者の皆さまと一緒に、
孤立防止について話し合いました。

シンポジウム登壇者

山梨県福祉保健部障害福祉課 地域生活支援担当 課長補佐 福本康之 氏
社会福祉法人三富福祉会ハロハロ相談支援部「からりと」

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 8

帝京科学大学非常勤講師 社会福祉士
NPO法人バーチャル工房やまなし 会員

牧田大輝

進行：田崎輝美



A2 版の広報用ポスターを印刷して、公共の施設、支援学校などへ掲示しました。

また、A4 版のチラシも印刷して、全県下のボランティアボードに掲示し、連携団体とともに郵送、手渡しなどにより配布しました。



配布用チラシ



高齢者・障害者の孤立防止セミナー

孤立しない・させないために ICT でできること
一緒に考えてみませんか？

日時

平成 27 年 **2 月 11 日 (水 祝)**
13:00 ~ 16:00 (開場 12:30)

場所：山梨県立図書館イベントスペース東

定員：50 名 入場無料

お申し込み NPO 法人バーチャル工房やまなし
TEL : 055-242-2677 mail : info@y-virtual.jp

主催 特定非営利活動法人 バーチャル工房やまなし

共催 一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会山梨支部
南アルプス市障害者福祉会 甲州市視覚障害者福祉会
在宅障害者外出支援サークル五っ湖

後援 山梨県 社会福祉法人 山梨県障害者福祉協会

セッション 1

- ① 孤立防止事業の実施報告
- ② ICT で叶えるコミュニケーション
NPO 法人バーチャル工房やまなし 田崎輝美 氏

セッション 2

「ICT による障害者の社会参加について」
帝京科学大学非常勤講師
NPO 法人バーチャル工房やまなし 牧田大輝 氏

セッション 3 シンポジウム

「高齢者・障害者の孤立防止について」
講師、参加者の皆様と一緒に高齢者・障害者の
孤立防止について考えます。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

支援事例

訪問支援と遠隔支援の実例

項目番号の内容は次のとおりです。

- ①支援対象者の性別 ②年齢 ③障害の種別
- ④支援方法 ⑤支援した回数
- ⑥支援した内容
- ⑦工夫した点
- ⑧支援を受けた人の声

事例 1 高齢者への支援 1

- ①女性 ②80代 ③なし
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問2回 遠隔2回
- ⑥メールの送受信やスカイプでの会話。ワードでお知らせなどを作りながら、基本操作を習いました。
- ⑦県外にいるご家族とスカイプで繋ぎ、ウェブカメラからの映像を見ながら会話を行い、スカイプ通信の楽しさを知っていただきました。
- ⑧数ヶ月前に誕生した孫の様子を見ながら県外に住む家族と話しができて、とても嬉しかったです。今までパソコン教室へ出かけることができず使用を諦めていましたが、今後も利用していきたいと思います。

事例 2 高齢者への支援 2

- ①女性 ②70代 ③視覚障害
- ④訪問支援 ⑤訪問3回
- ⑥挨拶状（年賀状）作りをしました。
- ⑦連携団体の支援者も同行して、音声による操作での使用方法を支援しました。
- ⑧同じ障害を持つ方に訪問支援していただけたので、とても理解しやすかったです。これからも、もっとパソコンを活用したいと思います。

事例 3 高齢者への支援 3

- ①男性 ②60代後半 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問4回 遠隔3回
- ⑥スカイプを利用した会話の体験、ワードを使つての入力練習、挨拶状作り。
- ⑦スカイプを利用した複数人での会話や、ウェブカメラの利用ができるように、訪問と遠隔の同時支援を行いました。
- ⑧スカイプをテレビ電話のように利用でき、数ヶ所の人と同時に会話もできることが分かり驚きました。今後も利用できればよいと思います。

事例 4 障害者への支援 1

- ①女性 ②60 代前半 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 5 回 遠隔 5 回
- ⑥PC 環境確認、セキュリティソフトの確認、iPhone のスカイプ体験、ブログに掲載する素材についての知識の習得、「ブログ」開設。
- ⑦ネット上で行っていききたい情報発信の方法について、支援者と支援対象者が一緒に考え模索し、一番適したものを導き出しました。
- ⑧自分のペースで、集めた情報（画像も添付）、自分の思い、考えを着々と発信できるようになりました。パソコン教室へ出かけることが困難だったので、よい機会に巡り合えました。

事例 5 障害者への支援 2

- ①男性 ②20 代 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 1 回
- ⑥タブレットの操作方法。
- ⑦介助者の手を借りず自分で操作できる方法を提案しました。
- ⑧外出時にも持ち歩き、言いたいことを伝えるコミュニケーションの道具にして行きたいと思います。

事例 6 障害者への支援 3

- ①女性 ②40 代 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 3 回
- ⑥タッチセンサーを使つてのパソコンの入力方法。
- ⑦あごにタッチセンサーを当てマウスの代わりにしていますが、パソコン操作中何度もセンサーの位置がずれてしまい、介助者がいないとパソコンを使用できない状態だったので、介助者の手を借りずにセンサーの固定化を図れる方法を提案しました。また、メール操作を支援することにより、知人とのコミュニケーションを深めることができました。
- ⑧もっとこのような支援の形を続けていって欲しいです。センサーのずれを気にしなくても、パソコン操作に集中できるようになったのがよかったです。

事例 7 障害者への支援 4

- ①男性 ②30 代 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 7 回 遠隔 1 回
- ⑥ワードの操作方法、エクセルの操作方法。
- ⑦視覚にも若干障害があり、今までは初期設定のままで操作を行っていて目に負担がかかっていましたが、画面の拡大表示や白黒反転表示の説明をしたことにより、操作を楽に行っていただけるようになりました。
- ⑧画面の拡大表示などについて教えてもらえてよかった。今まで、パソコンを使いたくても目のことを考えて躊躇していましたが、これからはもっと活用したいです。

事例 8 障害者への支援 5

- ①女性 ②60 代 ③視覚障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 5 回 遠隔 5 回
- ⑥音声対応ソフトの操作方法。
- ⑦音声ソフトを使用した漢字変換のコツやタイピング練習の支援など、音声ソフトをよりよく使うための工夫を行いました。
- ⑧パソコンの使い勝手が、良くなりました。

事例 9 障害者への支援 6

- ①男性 ②30 代 ③身体障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 2 回
- ⑥ワードを使用しての入力練習、挨拶状作り。
- ⑦ワードを使用した挨拶状作成の際、オリジナルの写真を取り込む方法などについての支援を行いました。入力練習のためにタイピングソフトを使用し、更にキー操作に慣れていただく工夫をしました。
- ⑧オリジナルの写真を取り込んだ挨拶状が作れるようになりました。もっと支援を受けたいです。

事例 10 障害者への支援 7

- ①男性 ②50 代 ③精神障害
- ④訪問支援及び遠隔支援 ⑤訪問 5 回 遠隔 2 回
- ⑥パソコン基本操作、ローマ字入力練習、タッチタイピング基礎。
- ⑦支援対象者が ICT 機器を所有していないため、訪問時にノートパソコンを持参して支援しました。
- ⑧障害を持ってから外に出る機会も少なくなり、仕事にも就けずにきましたが、今回の支援を受けたことがきっかけになり、少しでも社会参加できるようになったら良いと願っています。（ご家族より）

事業の成果と課題について

1 ICT 技術を用いたコミュニケーションを実現させる為の訪問支援活動

[成果]

支援の成果

希望する支援内容	支援内容と支援後結果	対象人数
メール・スカイプを利用したい。	訪問と遠隔支援により体験していただいた結果、メール・スカイプを利用できるようになりました。	10 名
季節の挨拶状などを自分で作って交流したい。ワードを利用したい。	ワードによる作り方を習得していただき、実際に年賀状を送りました。	11 名
キーボード操作などパソコンの基本操作を習得したい。	キー配列、マウスの使い方など、パソコンの基本操作を覚えていただいた結果、パソコンを利用していく意欲が高まりました。	19 名
ICT 機器を持っていないが体験したい。利用できるか試してみたい。	訪問する際に ICT 機器を持参し、体験していただいた結果、不安に思っていたことなどが解消し、利用したいと思うようになりました。	5 名
音声ソフトによるパソコンの基本操作を習得したい。使用しやすい音声ソフトを見つけない。	パソコンを使いこなしている視覚障害者とともに支援を行った結果、音声ブラウザによるパソコン操作に徐々に慣れてきました。使用しやすい音声ソフトが見つかりました。	8 名
タブレットやスマートフォンなどを使えるようになりたい。	介助者と試行錯誤していたので、自分で操作できる方法と環境を提案しました。その結果、外出時にも持参して、言いたいことを伝えるコミュニケーションの道具にしたいと思うようになりました。	2 名
SNS やブログなどを利用して情報発信や情報交換をしたい。	一緒に情報発信ツールを模索し、ブログを開設しました。	1 名

※支援対象者の中には、複数の希望を持っている方もいましたので、合計人数は、本事業支援対象人数よりも多くなっています。

【工夫による成果】

- ① 県内の各地域で活動している団体と連携することにより、連携団体が持っているノウハウを活用して、事業の対象となりうる人の情報を収集し、そのニーズに応えることができました。
- ② パソコン操作を習う機会に恵まれない高齢者・障害者の方に、お住まいに訪問するという形で支援することができ、短期間にパソコンが持っている機能や、ニーズに合ったソフトウェアなども体験、習得していただきました。
- ③ 障害者の皆さまは、個々に障害の特性が異なりますので、それに合わせた支援を行いました。
例えば、視覚障害者の方には、現在、音声ソフトを利用してパソコンを使いこなしている方を中心にして支援を行った結果、分かりやすく適切な支援を行うことができました。
また、もともと ICT 機器に備わっているバリアフリー機能を知っていただき、手軽に操作できるようになりました。
- ④ 支援対象者が疲れを残さないように、定めた時間内で休息をはさみながら支援しました。
また、障害によって動作に時間がかかる方には、その方のペースに合わせて進めました。そのため、支援回数が多くなった方もいますが、ご希望に沿った支援を行いました。
- ⑤ 訪問による支援などは、特に同居しているご家族や介助者の理解が必要であることから、パンフレットなどを活用し、この事業の趣旨、目的、支援方法などを説明した上で支援を行いました。
- ⑥ スカイプを利用した会話、テレビ電話、ウェブカメラの利用の仕方などに慣れていただくため、訪問場所と ICT 学習センターを繋いで体験していただき、スカイプの便利な使用方法などを理解していただきました。

2 孤立防止に有効な ICT 技術を学ぶセミナーの開催

【成果】

今回の事業の支援者、障害当事者、公共の福祉担当者、地域の障害者相談支援団体の皆さまから孤立防止に関するお話を伺い、地域の皆様と一緒に高齢者・障害者の孤立防止について考える機会を提供できました。

「高齢者・障害者の孤立防止セミナー」アンケートの集計結果

セミナー参加人数	43 人
アンケート回答人数	32 人
満足度	満足 7 人 やや満足 22 人 やや不満 3 人
具体的に良かった点	・ 知らなかった情報が得られて、大変参考になりました。 ・ 講師のお話から、障害者に合わせた工夫の仕方、役割分担が必要であると感じました。 ・ 障害者が社会参加していく上での、責任感の準備も必要だと思った。 ・ 自分がやりたいこと、何ができるのかということを考えることも大切だと思いました。 ・ 孤立防止対策には色んな手段があることが分かりました。
具体的に良くなかった点	・ 高齢者に関する情報がもう少し多ければ良いと思いました。 ・ 地縁型組織との協働についての話しも聞きたかった。 ・ ICT の活用は特定のコミュニティへの参加には大いに役立つが、実際の見守りや援助という部分の話しも組み入れて欲しかった。

3 事業全体の成果の考察

支援対象者が、お持ちのパソコンなどの ICT 機器を使いこなすことができず、半ばあきらめていた意識が変わり、これまで以上に ICT 機器を利用して、自らが持っている可能性を見出して自信を深めることにより、社会参加への意欲を高めて、コミュニケーションの輪を広げていただける機会となったのではないかと思います。

思いをうまく伝えられない方、移動が困難で遠くに住んでいる家族や友人を訪ねることができない高齢者・障害者の皆さまにとっての ICT 機器の利用は、孤立防止のための一つの手段にすぎないのかもしれませんが、それによって、内向の気持ちが外向きになり、地域社会との繋がりの中で生活をより充実したものにしていくという気持ちを喚起する道具としていただけるものと思います。

また、今回支援を受けられた皆さまが、将来は支援する側に回り、お互いに助け合いながら、日々の生活を豊かにしていただければ幸いです。

見えてきた課題とこれからの取り組み

1 課題

今後、ICT を利用して高齢者・障害者の孤立防止を進めるためには、より多くの皆さまを支援できるネットワーク作りをしながら、以下の課題を解決して行く必要があると思われます。

- ① 高齢者・障害者が ICT を利用できない、使いこなせない原因をより深く追究して行くこと。
- ② ICT に関する知識を広める機会を多く作ること。
- ③ 積極的に手を差し伸べることによるニーズの把握をすること。
- ④ 一時的な支援ではなく、長く継続できる支援にして行くこと。
- ⑤ 事業を進める上で必要な資金を調達すること。
- ⑥ 興味を持ち ICT 機器などを購入したいと思っけていても、高価なものも多く、経済的に購入が難しいこと。
- ⑦ 重度の障害をお持ちの方が、障害に合った補助具に関する情報を得難く、手軽に試用できる機会を持ってないこと。
- ⑧ 支援対象者との人間関係の構築に努めることも大切なので、支援できる人材の確保や養成が必要となること。

2 今後の取り組み

連携団体とともに以下の事項に取り組み、ICT を利用した高齢者・障害者の孤立防止についての事業を進めて行きたいと思います。

- ① 今回の事業で支援した方々の追跡調査を行い、必要に応じて支援する。
- ② より多くの支援を必要としている方々の希望に応じていくため、多くの団体と協力しながら、長く継続して支援に応えられるネットワーク作りを進める。
- ③ 支援できる人を養成する事業を検討して、実施できる環境を整える。
- ④ 広報活動を行い、地域の皆さまに理解していただけるように努め、賛同者を増やす。
- ⑤ 地域の中に埋もれているニーズを掘り起こす。

発行者 NPO 法人バーチャル工房やまなし
〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居 55-12
TEL 055-242-2677 FAX 055-242-2678
E-mail info@y-virtual.jp
<http://www.y-virtual.jp/>

発行日 平成 27 年 3 月

**平成 26 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
ICT による高齢者・障害者の孤立防止事業**